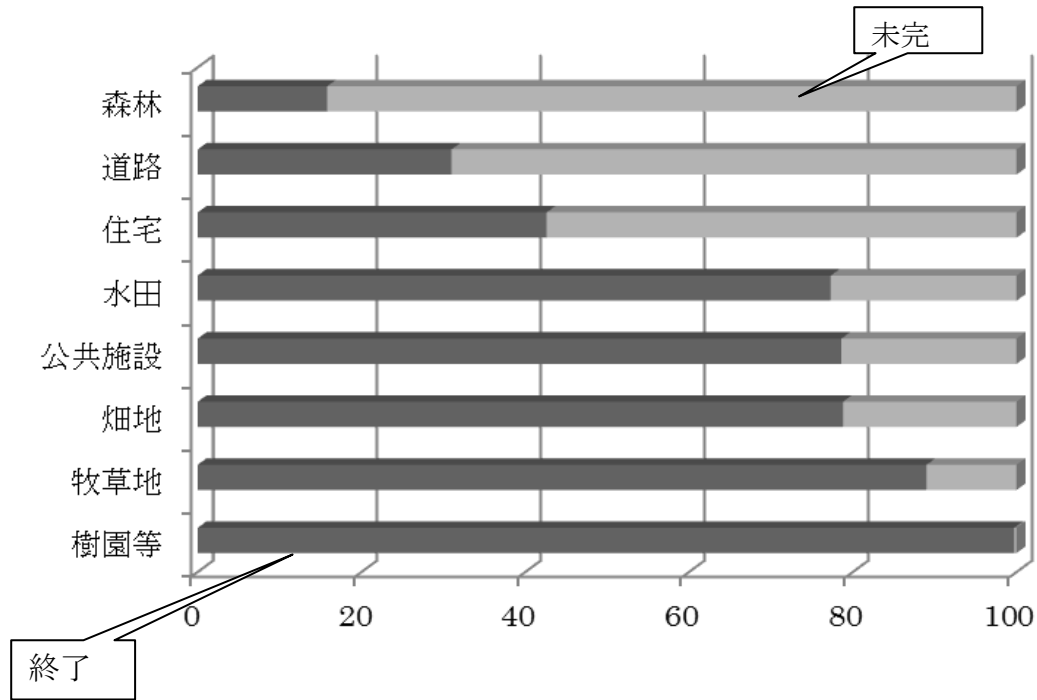


福島除染情報手渡しの会レジメ

1. 除染の進捗状況 (福島民報 2014. 3. 2 震災から3年より作成)

汚染状況重点調査地域：楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、及び飯館村。
及び田村市、南相馬市、川俣町、川内村で警戒区域又は計画的避難区域であった履歴地域



国直轄除染地域についての除染状況（環境省「除染の進捗状況についての総点検」
H25年9月10日）による帰還予定年は以下の通り。（ ）内は確定していない。

2011 H23	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 H32
		田村市 (帰還済み)			大熊町				
		楡葉町	川俣町		南相馬市 (小高)				
		川内村			飯館村				
					葛尾村	(浪江町)			
						(富岡町)			
							(双葉町)		

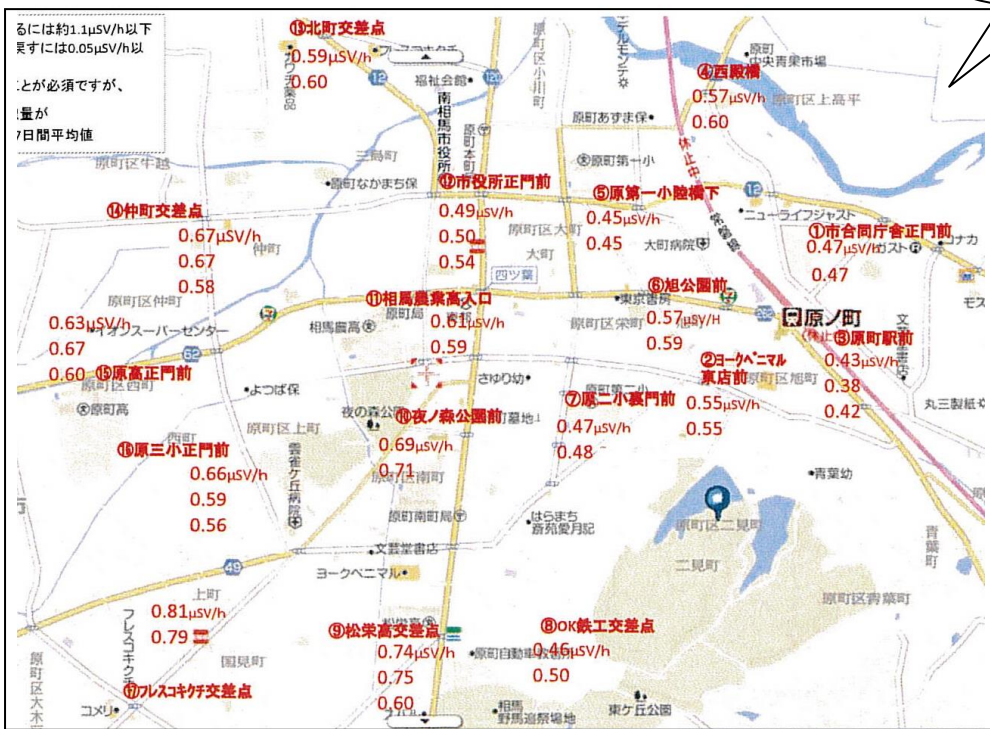
上記のような帰還計画を疑問視する声は大きい。

「双葉町は160年帰れない」木村真三獨協大学教授

「帰還を断れば、自主避難となり。これは棄民政策」東京新聞 (2014. 5. 27)

どのくらい線量は下がったのか (一般社団法人) 南相馬除染研究所 調査
南相馬市中心部

2011年7月

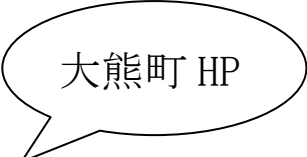


2014年2~5月



◆20km圏内空間線量率測定結果

単位：マイクロシーベルト/時



No.	住所(測定位置)		空間線量率(μSv/h)							線量計	
			4/10	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/22		5/29
23	夫沢	西北西約2.3km	9.4	9.5	9.1	9.3	9.1	8.6	9.0	8.7	NaI
25	野上	西約14km	1.4	1.5	1.4	1.4	1.4	1.5	1.3	1.4	NaI
26	野上	西約11km	1.6	1.5	1.4	1.4	1.5	1.5	1.4	1.3	NaI
29	夫沢	西約2.4km	25.7	24.0	22.3	23.1	23.4	23.2	24.3	18.6	IC
30	夫沢	西約2.6km	12.6	12.4	12.0	12.3	11.8	11.4	11.8	11.3	NaI
34	大川原	西南西約7.5km	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	NaI
35	野上	西南西約6.6km	6.0	5.8	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	4.9	NaI
36	下野上	西南西約4.8km	4.0	3.6	3.7	3.6	3.5	3.6	3.4	3.0	NaI
37	夫沢	西南西約3.0km	32.4	29.8	28.6	28.6	28.3	27.8	27.6	27.9	IC
38	小入野	西南西約3.4km	4.1	4.1	3.9	4.0	3.9	3.8	3.8	3.7	NaI
47	熊川	南南西約3.7km	21.2	20.4	19.6	20.3	19.8	19.7	19.4	17.4	NaI
50	熊川	南約4.0km	9.4	9.4	9.1	9.4	9.2	9.2	9.3	8.0	NaI

線量計の種類

NaI：NaI（ヨウ化ナトリウム）シンチレータによる値

IC：電離箱による値

測定実施者：電力会社



地区	25年度調査 (H25.4.26~H25.5.10)			H24-H25 低減率	H23-H25 低減率
	測定 地点数	線量 (μsv/h)	平均		
中村	28	0.12~0.51	0.26	27.78%	52.73%
中村東部	49	0.06~0.43	0.19	32.14%	54.76%
大野	107	0.10~0.43	0.25	32.43%	47.92%
飯豊	54	0.07~0.53	0.18	18.18%	53.85%
八幡	60	0.21~0.58	0.36	29.41%	50.00%
山上	92	0.16~1.08	0.47	26.56%	54.37%
日立木	58	0.11~0.50	0.29	21.62%	47.27%
磯部	69	0.06~0.39	0.20	25.93%	47.37%
玉野	56	0.44~1.80	0.93	40.38%	50.53%
計	573	0.06~1.80	0.35	31.37%	53.33%

コンクリート、アスファルトの多い場所は、低減率が高い

：自然減・除染・ウエザリング効果・住民の努力

樹木の多い場所では、高い低減率はのぞめない

また、これ以上の低減はかなり困難

線量を考えるひとつの目安

- ①電離線放射線障害防止規則による被ばく限度 1) ~ 3) は実効線量管理
- 1) 緊急作業:100 ミリシーベルト
 - 2) 通常作業:5年間で100 ミリシーベルト、1年間で50 ミリシーベルト
 - 3) 妊娠可能な女子:3か月で5 ミリシーベルト
 - 4) 妊娠中の女子:1 ミリシーベルト (内部被曝)、2 ミリシーベルト (腹部表面)
- ②福島事故について (平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法) 避難基準; 年間20 ミリシーベルトを越える地域
- 長期追加被ばく線量目標; 1 ミリシーベルト以下に
(= 1時間あたりは、夜間室内考慮で0.19 マイクロシーベルトこれに自然放射線0.04を加え、0.23 マイクロシーベルト)
- ↑
この値を測定値と比べる

2. 3年間の除染情報にみる真偽

数々の意図的・非意図的誤情報

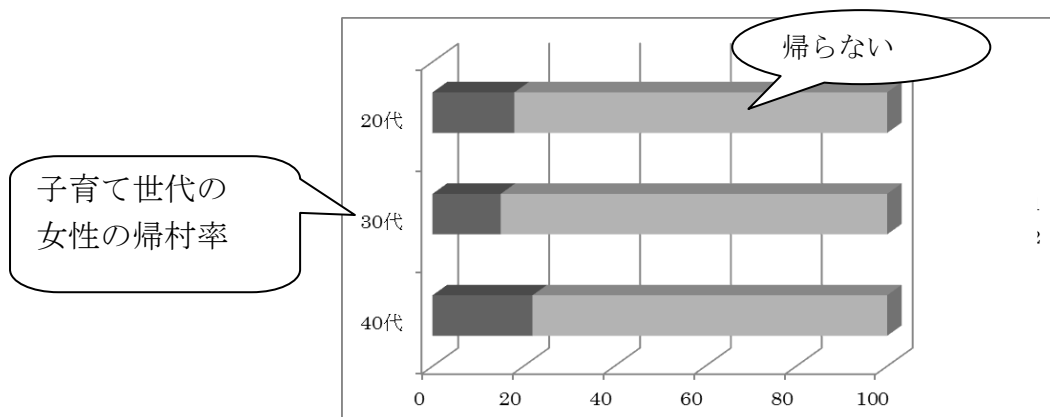
- ・2011年5~9月 ヒマワリキャンペーン
「ヒマワリは、チェルノブイリでも除染に使われたらしい。福島にヒマワリを贈る」キャンペーン開始。発信は宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の山下雅道専任教授が、肩書きはそのまま、個人の立場で立ち上げたホームページ(2011.4.23)にたどり着く。2011年9月に「効果なし」の国による結論で幕切れに。2011年のひと夏を持たせる役割
- ・2012年 PVA糊で表層土剥離。手間から到底実現できない
- ・2012年2月 「決意と覚悟をもってコストのかかる除染へ」児玉龍彦氏講演で、屋根・舗装材の交換等で1軒あたり500万円の負担を訴える (2014年現在、氏はほとんど南相馬には現れない)
- ・2013年1月4日 朝日新聞除染水垂れ流し報道 (田村市、檜葉町) のあと、高圧洗浄に制限がかかり、その後、2013年7月除染水垂れ流し誤報道 (南相馬市) あるも、こちらは業者間のトラブルで、事実ではなかった
- ・効果のないどころか、有害物質となるプルシアンブルー散布

3. 今後の方向

①帰還区域の実態

- ・田村町都路地区 (朝日新聞プロメテウスの罫 2014.5.25~)
裏山側に線量計を向けると 0.74 マイクロシーベルト/時間
「はじめに帰還ありで、すべてがすすむ」ことへの怒り

- ・ 広野町の帰村率 (NHK 福島ニュース 2014. 5. 29)
20-40代 について (男性 33% 女性 18%)



帰らない理由；放射線影響が心配／原発にトラブルが続いている

②被ばく線量調査

福島県内における住民の被ばく線量評価 (日本原子力研究開発機構 2014. 4. 18)

<特徴>

- ・ 林業が最も高い被ばく線量
- ・ 教職員または事務職員最も低い
- ・ 農家被ばく事務職の2倍
- ・ 川内村では、20 km圏外に住居と職場がある教職員と高齢者 (C 氏) で最も低い被ばく線量を示す。
- ・ 居住制限区域に居住している場合でも職場が 20 km圏外の場合は線量が低くなった。
- ・ 田村市都路町は、林業を想定した場合も含めて、いずれも低い値であり、値に大きな広がりはない。A、B 氏共に 1mSv を超える値を示すのは、山林部に入った場合。
- ・ 飯舘村は、対象地区がすべて居住制限区域であり、推定値は行動の範囲によって大きく異なる。

C 氏の場合は調査対象地区で最も空間線量率が高い公民館を自宅に想定しており、殆どの時間を屋内で過ごす高齢者であっても、他のケースの農業や林業に匹敵する推定値となった。

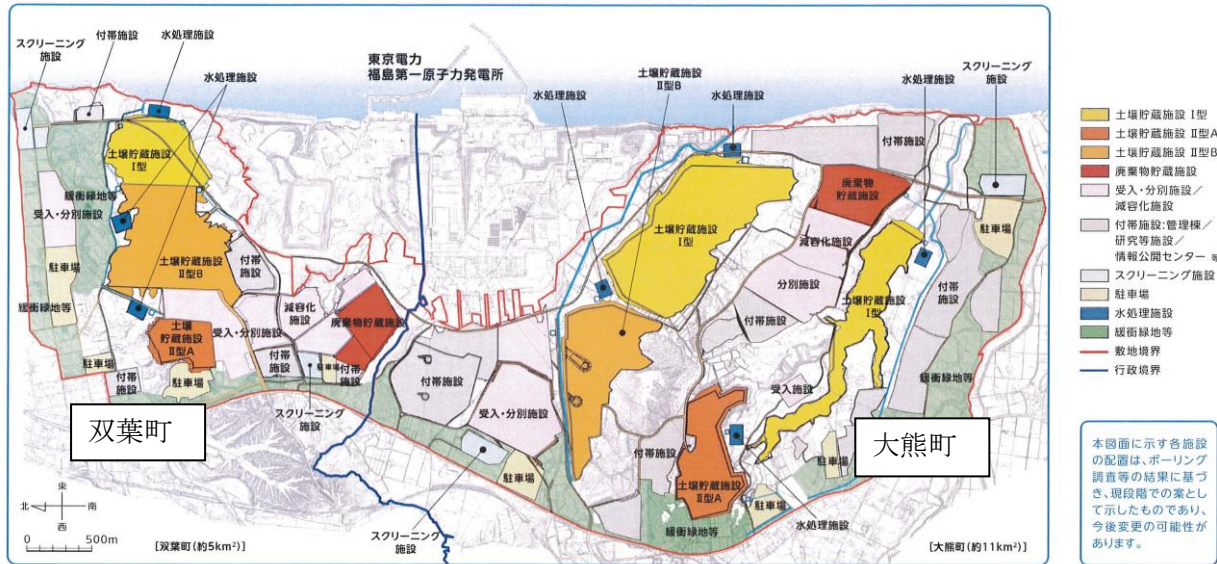
場所	職業	年間被ばく線量 (単位: mSv)
飯舘村	農林業	7.1 ~ 17.0
	事務職	3.8 ~ 11.2
	高齢者(無職)	4.9 ~ 16.6
田村市	農林業	0.9 ~ 2.3
	事務職	0.6 ~ 0.7
	高齢者(無職)	0.6 ~ 0.8
川内村	農林業	1.3 ~ 5.5
	事務職	1.1 ~ 1.8
	高齢者(無職)	1.1 ~ 2.1
伊達市	事務職(実測)	0.8
	農業 (//)	1.3 ~ 1.9
川内村	農業 (//)	1.85
田村市	農業 (推計)	2.1 ~ 2.5

東京新聞 2014. 4. 19

③国・東電の意向

- ・ 平成 25(2013)年 3 月 14 日、経済産業省 (原子力被災者支援, 原子力被災者生活支援チームからのお知らせ) 「年間 20 ミリシーベルト の基準について」公表
内容は、「20 ミリシーベルトの基準は緩和してもよい。緩和したい」というもの

- ・環境省「長期追加被ばく線量目標；1ミリシーベルト以下は、あくまでも長期の目標値。解除の要件ではない。これを越えても帰還できる」（朝日新聞 2014.5.26）
- ・東電
「除染は費用がかかりすぎ、一企業での実現は不可能。産業総合研究所試算『汚染地域を1ミリシーベルト（年間）にするには、5兆円以上が必要』が根拠」（2014.3. 福島原発訴訟の第五回口頭弁論で）
これ以外に現在では、中間処分場問題が起こっている。



環境省資料

②（あくまでも）私の考え

- 1) 「影響がわからない」ことと「影響がない」ことは異なる。ここは意図的なごまかしがある
- 2) 汚染された地域ひとまとめに考えない。線量を調べる必要も
- 3) 帰還困難地域は存在する。すべての被害地域が現在の世代で帰還できるとは考えにくい
- 4) 生活対応は必要
 - ・放射性物質の基本は花粉症対策と同じ。特に髪の毛、足回りにつきやすい（帽子、こどもの靴、自動車の下回りなど）
 - ・帰宅後露出していた手や顔を洗う。風の強い日は外出や洗濯物を外へ干さない など
 - ・常緑樹は、線量が高い傾向
 - ・食品については、キノコ、山菜、タケノコ要注意。果樹については、小さくて堅い実（ユズ、栗、梅など）は要注意。魚は底魚、根付魚に注意。イノシシ肉は現在でも高い線量でている
- 5) 「原発事故への怒り」と「生活対応」は、切り離す

（以上）

【謝辞】本資料は、避難者交流「おちゃっぺ会」の参加者の方を中心に～福島を除染の話をしましょう～福島の除染情報手渡しの会レジメとして作成しました。主催の谷根千・駒込・光源寺隊および文京区社会福祉協議会と光源寺のご協力に感謝いたします。

権上(ゴンジョウ)かおる 環境カウンセラー・NGO 酸性雨調査研究会